

会議名	全国自立援助ホーム協議会あり方検討委員会（多機能化、高機能化グループ）第1回		
日時	2021（令和3）年8月19日（木）15：00～17：00	場所	オンライン（zoom利用）
出席者 役割所属 ※敬称略	<ul style="list-style-type: none"> ・串間範一（会長/ウイング・オブ・ハート）・前川礼彦（副会長/湘南つばさの家） ・恒松大輔（事務局長/あすなる荘）・川口充紀（制度政策：長/わだちの家） ・内藤直人（調査研究：長/鳥取フレンド）・本間征二（研修：副/KCカルム） ・熊沢百恵（広報：副/しおん）・万治貴史（事務局/カリヨンタやけ荘） 		
	／ 8名		
○協議内容			
⇒結論			
○自己紹介			
<p>○あり方検討委員会（多機能化、高機能化グループ）について 各論に入る前に「自立援助ホームの強み」と「課題」について各委員より挙げる。</p> <p>「自立援助ホームの強み」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員が常駐し、住まいとしての機能が安定している場所である。 ・第二種事業である…融通が利く。フットワークが軽く支援の幅が広い（自由度が高い）。 最終的な決定がホーム（子ども自身）で持ちやすい。 ・小規模である…小回りが利く、地域との連携がとりやすい。 ・18歳以上のケース（幼少期に保護されなかったケース）への対応、アフターケアの丁寧さ。 <p>「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政基盤が脆弱。 ・地域、ホーム間で格差が生じやすい。（第二種事業が要因でもあるか） ・利用者に就労を求めるとケアに専念できない場面もあるか。 <p>○2020年度実態調査（+2015年実態調査との比較）から現状把握と課題の抽出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設立年数、運営法人種別の割合の経年変化を確認。 ・運営課題は職員に関わること（体制が不十分・雇用・待遇）がメイン。 ・入居者の課題が多様化していることを確認。 ・「安定した運営を見通せない」（71%）「暫定経験」（31%） <p>→暫定定員に係る課題に対して協議会としてどう解決方法を見出していくか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況調査について項目等は要改善か。（就学、入居経路、心身等の課題） エリアや設立年数等で特徴があるのか等の分析も有効ではないか。 <p>○今後の活動方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的養育における思春期青年期の自立支援に足りないものは？ ・多機能化、高機能化については自立援助ホームだけでなく社会的養育全体での議論が必要ではないか。 ・関係機関（ex児童相談所、児童養護施設、児童自立支援施設、心理治療施設）からのニーズの抽出と整理をし、相互理解を深める必要。 児童相談所との連携や周知活動への注力も必要。 ・課題を一つずつ解決していった先に多機能化高機能化の答えがあるのではないか。 ・入居対象年齢についても議論が必要か。 ・それぞれのホームの課題について個別に相談できる機会も確保されたい。 			

<ul style="list-style-type: none"> ・これまで自立援助ホームが大切にしてきた「内面的な支援」から数値が求められるような「外面的な支援」が求められている。→社会的ニーズの整理。 ・ケア基準、標準化グループと役割（議論する内容）を明確にし、連携、連動を図る。
⇒本日の協議内容を前川が取りまとめ。グループの活動方針等を次回以降の委員会で決定。
○日程調整 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度中の開催日程について協議。
⇒原則毎月第一月曜日 10：00～12：00 に開催。 9/6・10/4・11/1・12/6・1/3（変更予定）・2/7・3/7
○工程確認
⇒次回以降に持ち越し。
○傍聴について <ul style="list-style-type: none"> ・役員ホーム以外への情報発信手段として、今委員会を YouTube 等で動画配信を検討。媒体や配信期間や検討必要。
⇒他団体等からも情報収集をし、検討。
次回 日程：2021年（令和3年）9月6日（月）10:00～12:00 於：オンライン